

地元説明会の主な質問と回答（朝日町五箇庄地区）

Q 7月25日に山田町を視察し、安全の確保・確認をしたということであるが、どのように確認したのか？また、県知事の覚書にもある廃石綿、PCB等の確認はしたのか？アスベストは手作業で取ることができるのか？

A【町長】現地を見て安全を確認した根拠は、エコぽ～とのまわりの数値よりも山田町の放射線量が低いからです。また、宮古市の廃棄物を毎日受け入れている秋田県大仙市の処理場を視察しましたが、毎日専門業者が計測している焼却灰等についても、全く問題が無いものということを確認してきました。現地の木くずがエコぽ～とに到着した際、さらには焼却灰になった際には、一緒に計測して欲しいのです。計測数値を全て公開していきたいと考えています。「安全性は自らの目で確認したい。」ということであれば、私は広域圏に強く働きかけますので、皆さんに現地を確認して欲しいと思います。

A【国】国で作成したマスタープランにおいても、石綿やPCBは分別することを定めたうえで、災害廃棄物の受入れをお願いしています。

A【県】覚書では、「廃石綿・PCB等が混入しているものは受け入れない。」としています。現地でも破碎・選別は丁寧に行われています。よって、廃石綿・PCB等の混入は無いものと考えています。また、大気汚染防止法において、アスベストについては調査することとなっており、当該環境測定もなされていると聞いています。

Q 環境省の資料は「木くず」「可燃物」となっているが、新川広域圏の資料では「木質系可燃物」となっている。木質系ということは、ビニールとか何かほかに混じっているのか？

A【広域圏】ほとんどが木くずですが、国や岩手県で測定した結果、90%以上が木くずであり、残りの数%が紙や布等の細かいものが混ざっているということです。新川地区ではビニプラは不燃物扱いにしていますが、エコぽ～とに出されるごみのうち8%程度のビニプラ類が混入しています。災害廃棄物は約90%が木質系可燃物で、残り約10%に紙・布・ビニールが混入しています。よって、通常焼却しているごみとほとんど変わらないと認識しています。

Q 試験焼却した島田市焼却施設の近くの松の葉に高濃度の放射能が測定された。放射性セシウムは、バグフィルターで完全に取り除くことができないのではないのか？

A【国】静岡県島田市の焼却施設周辺の松葉の件ですが、6点について試験焼却の前後で比較されているものの、濃度のバラつきが試験焼却によるものなのかよ

く分からないので、試験焼却による影響であるとは言えないと考えています。

Q バグフィルターで 99.99%取ることができるそうだが、どこで行われた実験か？

A【国】環境省が出している広域処理に係るガイドラインでデータをお示ししており、具体的には福島市の荒川クリーンセンターのものが載っていたかと思います。

Q 賛成、反対があるわけであるが、どのように住民の賛意を取るのか？投票？

A【町長】住民の皆さんが報道等を通じて不安に思っていることを、事実をもって取り除くことが、町長の仕事であると思っています。住民投票等については、私の一存では決めかねます。新川広域圏としてどのような形で判断するかは、協議をしていきたいと思っています。町長としては、皆さんの声をお伝えし、4首長で協議したいと思っています。不安を取り除くために、是非、測定に立ち会って欲しいと思っています。現地に行く機会があればお願いします。

Q バグフィルターは、本当に放射性物質を吸収できるのか。

A【国】バグフィルターが放射性物質を吸収しているというよりは、放射性物質がばいじんに吸着し、そのばいじんがバグフィルターでキャッチされるという仕組みです。それが実際にできていることを測定して確認しています。

Q 試験焼却は、地元の同意がいらないのか？

A【町長】試験焼却の前に「安全なものである」というご理解をいただき、不安を取り除いてから試験焼却を実施して、また安全であると判断していただけるのか、本格受入れ可能とご理解をいただけるのかどうかを踏まえての試験焼却であると考えています。

Q トラックの放射線測定はコンテナの外から壁を通して測定していたが、それではアルファ線、ベータ線は測ることできないのではないかと？

A【国】プルトニウム、ストロンチウム、放射性セシウムといった物質の土壌濃度を測定し、高いところについて50年間の積算した線量を確認したところ、ストロンチウム等は、放射性セシウムに比較して十分値が小さいということで、基準、対策については、セシウムに絞って行うことが適切だと判断しました。セシウムに関しては、ガンマ線を測定すれば足りると思っています。

Q 環境省の資料はいつの数字が入っているのか？今は廃棄物の量が減っていると聞いている。

A【国】最新のデータで、8月7日に広域処理の工程表を発表したものにに基づいています。

Q 静岡県島田市の試験焼却後、高濃度汚染が発覚したと聞いており、それと同じものを焼却しても大丈夫だとは思わない。島田市のバグフィルターも40%以上も漏れていたし、製造業者も放射性物質を除去できるとは言っていないので、バグフィルターを使えば大丈夫という説明はおかしいのではないかと？

A【国】島田市での件については、若干誤解があります。「放射能汚染が発覚した。」という指摘ですが、焼却施設での災害廃棄物焼却の影響かどうかは明確になっていません。また、「放射性物質が4割漏れた。」ということですが、一部の方がいろいろな数値を使用して物質収支から計算されたものであり、1つ1つの計算を見てもおかしいところが見受けられます。元来、廃棄物処理施設で物質収支を把握することは難しいと考えています。また、廃棄物処理施設出口での排ガス濃度を測定して「不検出」であることを確認しています。

バグフィルターのメーカーにも問い合わせられたとのことですが、質問の仕方にもよると考えます。安全性については、実際の広域処理を行っている16都県の自治体で、排ガスの放射性物質の濃度を測定して、濃度限度以下若しくは不検出であると確認されていることが、一番の証明であると認識しています。

Q エコぽ～とから放射能が漏れて、町が汚染された場合はどのような補償や対策があるのか？

A【国】補償・対策等に関する質問ですが、広域処理をお願いしている災害廃棄物は、放射性物質が不検出若しくは非常に低いものに限っていますので、健康影響が出るとは考えていません。

ただし、様々な心配の声をいただいていることも事実であり、風評被害対策もしっかり行っていきます。まずは、安全性の説明に万全を尽くします。そして、モニタリングを強化するとともに、データを分かりやすく公表していきます。このような対策を行うことで風評被害防止対策を講じ、これらに鋭意取り組むことで、安全性にご理解いただけるよう最大限努力していきます。

また、政府は、一元的な対応窓口を環境省に設置しており、万が一、具体的な風評被害が発生した場合、関係省庁が連携して迅速な対応が取れるような体制を取っています。

Q エコぽ～との建設当時、煙にもおいも出さないということであつたが実際は出ているではないか？

A【広域圏】エコぽ～と建設に係る説明会時に、煙・臭気が出ないという説明がな

されたかは分かりませんが、当然環境基準を下回るものの、煙は出ます。100%ばいじんが排出されないということは考えられません。

Q 五箇庄公民館の上で環境測定をしているが、その結果をほしいと広域圏に言ったが、県のHPを見てほしいと回答があった。不親切であり、信用もなくなる。

A【広域圏】環境測定データのについては、情報開示しています。県のホームページでの閲覧のみを促したのは失礼だったと思います。

A【司会】五箇庄公民館の屋上にある環境測定は直接新川広域圏に関するものではありませんが、少なくとも、新川広域圏に関するデータについては申請してもらえれば開示していきます。

Q 環境大臣が災害廃棄物にはクロムが入っていて危険であると言っていたが、その説明もなく安全とは言い切れないのではないか？

A【国】ヒ素、クロムの件ですが、細野環境大臣の発言趣旨は、緑の防潮堤に災害廃棄物を用いるという話があり、災害廃棄物を素掘りの状態で埋め立てすることは問題があるというものでした。ヒ素、クロムは廃木材の中に含まれている場合がありますが、廃棄物処理法に基づいて処理されれば、安全性は担保されるものです。

Q バグフィルターを作っている会社も10社のうち9社までが安全だと言っていないのに、ここで安全だと言われても信用できない。

A【国】バグフィルターについては、放射性物質をとるために製造されたものではなく、元来ダイオキシン対策として製造されてきたものです。この安全性についてですが、実際に放射性セシウムの吸着したばいじんがバグフィルターで取れていることが、何よりの証明であると考えています。

Q 子供の安全、健康について保障されるかの質問においての回答が得られていない。答えてほしい。何をもって住民の理解を得るかについて答えてほしい。3回の説明会だけで試験焼却するのは納得できない。

A【町長】 私には、町民の安全を守る責務があります。特に子どもの健康を害するようなものは持ち込まないとともに、安全の確保を最優先に考えています。今回の災害廃棄物の広域処理についても、その考えで臨んでいます。また、現地も視察し、安全を確認してきました。

皆さんと情報を共有しながら、皆さんが不安に思っていることを1つ1つ「事実及び科学の目」でもって確認し合うことが大切であると考えています。

皆さんの基本的な考えと私の考えが、なかなか一致できないのは残念です。私は、危険なものを持つてくることは一切考えていません。しかし、自然界に通常存在する放射線量はどうすることもできません。山田町の災害廃棄物仮置場の放射線量数値は0.07 マイクロシーベルト/hであり、エコぽ～との当該数値は0.08 マイクロシーベルト/hとほとんど変わりません。私は、災害廃棄物を単独で焼却しても、混焼しても数値は変わらないと思っています。このような数値の確認も皆さんと一緒にいき、データを共有したいです。町民と一緒に住みやすい朝日町にしていきたいということが、私の信念です。

Q 山田町のがれきは汚染されていないのか？

A【町長】 山田町の災害廃棄物の放射線量は、朝日町で焼却しているゴミと何ら変わりません。朝日町のゴミが安全でないとされますと、エコぽ～とを閉鎖せざるを得ません。私は、山田町の災害廃棄物は安全なものであり、原発の汚染を受けているとは思っていません。

Q このあと、アゼリアホールで説明し、受け入れは首長の判断となるのか？

A【町長】 7月31日から8月30日に掛けて4市町で説明会を実施しています。この説明会後に、新川広域圏の首長会議があります。その中で、どのようにするか協議します。秋田県大仙市の災害廃棄物処理状況視察において、「住民の不安を一番取り除いたのは、現地を実際確認したことである。」とのことでした。皆さんに現地を見てもらうことが皆さんの納得される材料になると思います。

A【朝日町】 今後の進め方とすれば、この説明会が全て終了した後に、2市2町の首長が集まる新川広域圏事務組合理事会を開催する予定です。また、町議会及び新川広域圏議会もあります。住民の代表である議員との話し合いも含めながら、本日出た意見も聴きながら、理事会の中で意見調整していきます。

あくまでも、「受入れ有りき」ではなく、本日は試験焼却に向けての住民説明会ということで、様々な意見を聴取させていただきました。皆さんの意見をお聴きし、問題点等を理事会で協議していきます。

○意見等

- 放射能濃度が100 ベクレル/kgを超えなければ良いという単純な問題ではなく、埋立地に洪水が発生した場合に海洋汚染が起きるような、負の遺産を子孫に残してはいけない。もっと真剣に議論すべきである。放射能のほかにも環境汚染物質があり、別々ではない。
- 今日の説明会を聞いても不安が解消されない。引っ越しを考えている人もいる。

- ・ 知事も広域圏も受け入れは住民の声を聞いてからということであったが、今日の町長の話では問答無用でお願いしたいと感じた。
- ・ 低線量であるから大丈夫ではなく、汚染されたら口から人体へ入るため、子どもたちに影響がある。決めるのは大人であり、それによって子どもたちの命が犠牲になってはいけない。
- ・ 少しでも汚染の可能性があるのなら子供たちの安全、未来のために受け入れをやめるべきである。